

アベママガ

いつも全力！大切な宗像のために。 議員活動報告書



※令和5年9月議会一般質問の要約です。公式には議会HPの録画、議事録をご確認ください。

渋滞の解消を



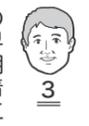
1 国道3号線が混雑していることや、一部福津市まで6車線化が進んでいることを踏まえて今後の展望を伺い、次のことが分かりました。

- ①宗像市内の一部交差点の混雑について、何らかの対策を行なっていかなければならない認識はあること。
- ②岡垣バイパス4車線化が共用開始になると、宗像市内の国道3号線の混雑が増すことが心配されていることを国と市で共有認識していること。
- ③6車線化事業を宗像市まで繋いでいくかどうかは現時点では答えることが困難だということ。
- ④市としてはまずは道路状況の調査を国土交通省に要



2 県道芹田石丸線の渋滞について、市の考えを伺いました。

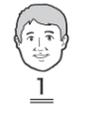
- ①過去に国、県などへの要望活動を進めてきた経緯はあり、地域の中で合意形成を図っていくことが重要であり、その上で地域と市とで一体となって要望活動を行なっていく考えだということが分かりました。
- ②私から具体的な改善策の一つとして富地原交差点の左折ランプに向かう専用レーンの取り付けを提案しました。市として「地域から要請をもらえれば対策などの支援をしたい」と答えを



3 都市計画道の早期着工を求めて質問しました。

- ①今後も県に強く要望し、早期事業者着手に繋がるように要望活動を継続していく考えであることが分かりました。
- ②私から付近道路の渋滞対策に加え防災の視点からも県に要望を行う必要があるのでは？と質問しました。市からは「要望内容を検討します」と答えがありました。

災害への備えを



1 10年前に「宗像市に災害ボランティアを募る仕組みはありますか？」と質問したら、「仕組みはありません」との答えがありました。昨年「仕組みはあるが、いざという時に機能するのですか？」と質問したら、「機能できるように体制づくりを進めていきます」との答えでした。そこで今回改めて災害ボランティアを募る仕組みづくりの進み具合を質問しました。

- 市からは「宗像市社会福祉協議会との協働により、災害ボランティアセンターに関する研修と、災害ボランティアセンター設置訓練を行った。今後も関係機関



1 災害ボランティアを受け入れる窓口は社会福祉会（社協）が担うことになっていますので、宗像市に提言したとしても社協が事業化に取り組む必要があります。

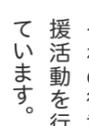
これまでも社協と宗像市とで地道（私の知る限り5年ほど前から）に協議を重ねながら少しずつ体制作りの検討を進めてもらっていました。

また、協議には福岡県ボランティアセンター等のお知恵をお借りしながら、（全国や県内の災害ボランティア団体と情報交換もしつつ）日赤看護大学と連携し模擬訓練等も行えるまでになったことは10年前と比べて大幅な前進といえます。



2 災害ボランティアの事前登録制度について伺いました。

通常、災害復旧のためのボランティアを募る場合は災害が発災してから市内外にSNS等を使い広く呼びかけます（これも社協の仕事となります）



1 今回私が取り上げたのは主に土砂の掻き出しや家財の搬出などを行える有志ボランティア（のことです）

しかも、予め域内外へ広く呼びかけ登録してもらう仕組みのことです。（福岡県内のある町ではこの制度によって町民や市内事業所が登録してくださって復旧初めに役立ったそうです）この制度には、

- ①平時から登録者に対し防災の情報提供ができる
- ②他自治体で災害が発生した場合、希望者を募り機動的に支援に行くことができる
- ③他自治体で災害ボランティア活動に参加した住民が経験を蓄積することで、本市で復旧作業を行う場合には地理的・地縁的な面から効率的となる
- ④近年消防団等の人材不足が深刻化しているが、この制度によって実際に作業を行える新たな人材の掘り起こしにつながる
- ⑤市民共助精神の醸成につながる
- ⑥被災時には社会福祉協議会が災害ボランティアを募

観光振興について



1 登山アプリ運営会社と連携し低山登山コースのブランディング、PR、山道整備のための人材確保や資金の確保、まち歩きイベントによる観光振興につなげる

ことができないか伺いました。

- ①市からは「前向きに調査・研究します」と答えてもらいました。
- ②私から海や寺社仏閣、温泉と登山のパッケージや、ご当地手拭いの活用を提案しました。



2 昨年提案し

付自動販売機を使った観光振興策について進捗の状況を行いました。

中心的役割を果たすことになるが、その準備機会として生かせる
などの効果が見込まれます。
災害ボランティアを募る仕組み、体制づくりを進めていくには、いつ、どんな人を、どのようにして募るのか？ と言うステップに行き着きます。
ですから、募るための体制づくりが進まなければ、私の訴えを理解してもらいにくい状況のままだったと思います。（事実2016年から言っています。）
①まだ宗像市には無いこの制度を導入することを提案し、「調査、研究していきま

す」と答えてもらいました。
②まだ宗像市には被災した市民を救うための応急対策実施要綱が整っていないことを指摘したうえで、整備することを求めました。
市からは「調査研究をします」と答えてもらいました。
③災害が起きた時にすぐに対応できるように予算を使えるための根拠と法整備の必要性を訴えました。
市からは「万が一の時に、すぐに対応が出来るように、これまで以上に綿密な予算管理を進める」と答えてもらいました。

7/20 地島の土砂災害現場を視察される井上正文県議に同行させていただき、宗像市でまだ整備されていない災害支援根拠の必要性を実感した次第です。9月一般質問で取り上げました。



地島にて

実現した項目

災害ボランティア活動実績			一般質問で取り上げたテーマ
年	名称	活動地	ため池、河川整備、雨水貯留施設、消防団等の質問を除く
2011	東日本大震災	南三陸町	
2012	九州北部豪雨	うきは市	災害ボランティアを募る仕組み
2013			地域雇用比率や地域貢献活動の総合評価への加算 被災時のがれき処理協定 24時間店舗へのAED設置
2014			住宅耐震改修補助の対象拡充
2015			SNSを活用した防災情報の発信
2016	熊本地震	西原村他	災害ボランティア事前登録 老朽化したコンクリートブロック塀の解体補助制度 ボランティアバス
2017	九州北部豪雨	朝倉市他	災害ボランティア事前登録
2019	西日本豪雨	武雄市	軽トラックの事前登録
2020			災害ボランティア事前登録 避難行動要支援者名簿の登録支援
2021			災害ボランティア事前登録
2022			災害ボランティアを募る仕組み
2023	7月大雨	広川町	災害ボランティアを募る仕組み 災害ボランティア事前登録



城山山頂にて▶